



園だより

文京区立第一幼稚園
令和元年度11月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

素敵な言葉

園長 田村 秀子

木々の葉が色付き、秋も深まってきました。今年は台風が各地で甚大な被害をもたらしています。尊い命を失った方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けた方々に心よりお見舞いを申し上げます。そして1日も早く元の生活に戻れますようにお祈りいたします。異常気象の原因とも言われる地球温暖化の進行を遅らせるために何ができるか。一人一人が考えていかなければなりません。

さて、第一幼稚園では、花壇の土を耕して球根を植えたり、どんぐりを使って遊んだりして秋の自然に親しんでいます。年長組は遠足の体験をもとに遊園地作りを始めました。友達との関わりの中で、このところ、素敵な言葉がたくさん聞かれています。いくつかご紹介します。

「〇〇ちゃんは一瞬懸命走ったから速かったよ。次の〇〇ちゃんも速かった。だから大丈夫なんだよ」運動会のリレーの途中で上履きが脱げてしまった子がいました。「ここに靴を置いたままにしたらいけない、友達が待ってるから急がないといけない」と思ったのでしょう。上履きの片方とバトンを両手に持って最後まで走り、立派でした。ゴール後、おなじチームの友達からの一言です。状況をしっかりと見ていて、友達をフォローする温かい言葉、素敵でした。

「〇〇ちゃん、大きいと小さい、覚えたんだ」「すごいね！」屋上で数人がタイヤを片付けている時、「大きいのはこっち、小さいのはこっち」と分けて片付けていると、日本語がうまく話せなかった友達も「大きいのはこっち、小さいのはこっち」とつぶやきながら片付けていました。それを聞いていた子たちが目を輝かせ、一緒に喜んでいました。友達の成長を自分のことのように喜ぶ子供たちを見ていると、温かい気持ちになりました。

「あのね、『さっきはごめんね』って言うの。そうすればまた仲直りができるんだよ」預かり保育に行く時に泣いている子がいました。「何か心配なことがあるの？」と聞くと「だってケンカしちゃうかもしれないし…」と不安そうです。「ケンカしちゃった時はどうすればいいのかな？」と近くにいた子に投げかけると、こんな風に答えてくれました。実感がこもった友達の一言。安心したように、笑顔で保育室に入っていました。

「幼稚園じほう」という冊子の中で、小説家の川村元気さんがこんな文章を書いています。「これからの社会を生きる子供たちは、なるべく自分と違う人を面白がることができるとよいと思います。同じ価値観で同じセンスの人と一緒にいると楽しいです。でも『何言っているの?』というような人こそが自分にとってヒントを与えることや、新しい視点をくれることがあります。それが多様性を受け入れるということだと思います」日々いろいろな友達と関わって、うまくいかない体験もしながら、自分なりに考え、行動し、少しずつ友達とのよい関係をつくり出している子供たち。素晴らしいと思います。子供たちのモデルとなっているのは、温かく根気強く子供たちに関わっている、周りの大人たちでしょうか。互いにじっくりと思いを話し合うことを大切にしながら、子供たちの心の成長をしっかりと見つめていきたいと思います。